

October 15, 2019

**【前日の為替概況】ドル円、欧州時間の安値 108.03 円から 108.46 円付近まで堅調推移**

14 日のニューヨーク外国為替市場でドル円は小幅ながら 4 日続伸。終値は 108.40 円と前営業日 NY 終値 (108.29 円) と比べて 11 銭程度のドル高水準。欧州市場では、米中通商合意の第 1 段階について「中国は合意文書に署名する前に一段の協議を望んでいる」との報道が伝わり、米中貿易協議の先行き不透明感からやや売りが優勢となり、108.03 円と日通し安値を付けた。NY 市場では、小安く始まった米国株が持ち直したタイミングで円売り・ドル買いが優勢となり 108.46 円まで値を上げたが、米国株が小幅に下落したこともあって、アジア時間の高値 108.52 円は上抜けることは出来なかった。

ユーロドルは 4 営業日ぶりに反落。終値は 1.1027 ドルと前営業日 NY 終値 (1.1042 ドル) と比べて 0.0015 ドル程度のユーロ安水準。NY の取引時間帯では、米国がコロンブスデーの祝日で米債券市場が休場となり、市場参加者が減少、相場材料にも乏しく、大きな方向感は出なかった。

ユーロ円は 4 日ぶりに反落したものの、下値が堅かった。終値は 119.53 円と前営業日 NY 終値 (119.71 円) と比べて 18 銭程度のユーロ安水準。欧州時間に 119.19 円と日通し安値を付けたあとはじりじりと下値を切り上げる展開となり、119.56 円付近まで下げ渋る場面があった。

ポンドドルは神経質な値動きだった。前週末にポンド高が進んだ反動からポジション調整目的の売りが先行。英国の欧州連合 (EU) 離脱案を巡り、「今週 17-18 日の EU 首脳会談までに EU 側と合意に達することは困難」との見方から 1.2516 ドルまで下落した。1.2650 ドル付近まで買い戻される場面もあったが、リンネ・フィンランド首相が「英 EU 離脱には一段の時間が必要」との見解を示すと再び弱含んだ。

**【本日の東京為替見通し】ドル円、米中通商「第 1 段階」「部分合意」に関する報道に要警戒か**

本日の東京市場のドル円は、先週末の第 13 回米中通商協議の「第 1 段階」としての「部分合意」に関連する要人発言などのヘッドラインに警戒する展開が予想される。

9 時半からの黒田日銀総裁のあいさつでは、本日から米連邦準備理事会 (FRB) のバランスシート拡大や欧州中央銀行 (ECB) の緩和パッケージを受けて、追加緩和への言及に要注目となる。

10 時半に発表される中国 9 月の消費者物価指数は、アフリカ豚コレラの感染で高騰した豚肉の影響で前年比+2.9%と予想され、生産者物価指数は、米中貿易摩擦による製造業の低迷で前年比-1.2%と予想されている。

日米通商協議では、米国の自動車や日本のコメに関する主要課題が「第 2 段階」へ先延ばしされ、「第 1 段階」として農産物で合意に到達した。米中通商協議でも、中国の構造改革、知的財産権侵害、技術移転などの「包括的合意」は「第 2 段階」や「第 3 段階」へ先延ばしされ、農産物や「米中通貨協定」などの「部分合意」(partial agreement) で「第 1 段階」(phase one deal) とされた。

中国側は、華為技術 (ファーウェイ) への禁輸措置や制裁関税の撤廃を望んでいたものの、本日から予定されていた対中制裁関税 (第 1・2・3 弾: 約 2500 億ドル) の税率引き上げ (25%から 30%へ) が先送りされただけで、対中制裁関税第 4 弾 (約 3000 億ドル) の発動中止には至らなかった。そして、ファーウェイへの禁輸措置撤回も先送りされている。さらに、為替操作防止をめぐるルール策定の合意は、「米中通貨協定」として「為替条項」による元安抑制、及び、中国人民銀行による基準値設定への抑制となることで、合意署名まで予断を許さない状況が続くことになる。

中国政府の公式声明は、劉鶴副首相と米国のライトハイザー通商代表部 (USTR) 代表およびムニューシン財務長官との通商協議の結果について、「合意」とは全く言及しておらず、「第 1 段階」(phase one deal) という言葉も使用していない。さらに、新華社は「残る問題の多くは依然として不確実性に満ちている」と冷ややかな言及をしている。昨日は、中国が米国政府との「第 1 段階」の合意署名前にさらなる交渉を望む、と報じられた。また、ムニューシン米財務長官は、12 月 15 日までの合意署名を望んでおり合意に至らなければ、対中制裁関税第 4 弾を発動する、と警告し、今週も劉鶴中国副首相と電話で協議し、次官級の通商交渉も開催される、と述べており、関連報道に要警戒となる。

ドル円のテクニカル分析では、9 月 18 日の高値 108.48 円から 10 月 11 日の高値 108.63 円と高値更新したものの、相対力指数 (RSI) は 9 月 18 日の 66.06 から 10 月 11 日の 60.36 まで高値を更新できずに低下していることで、上昇エネルギーの枯渇を示唆する「逆行現象 (ダイバージェンス)」となっている。トリプル・トップ (108.48 円・108.47 円・108.63 円) の可能性に要警戒か。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

- 09:30 ◎ 黒田東彦日銀総裁、あいさつ
- 未定 ◇ 日銀地域経済報告（さくらレポート）
- 13:30 ◇ 8月第三次産業活動指数（予想：前月比0.6%）
- 13:30 ◇ 8月鉱工業生産確報
- 13:30 ◇ 8月設備稼働率

## &lt;海外&gt;

- 09:30 ◎ 10月豪準備銀行（RBA）理事会議事要旨
- 10:30 ◎ 9月中国消費者物価指数（CPI、予想：前年比2.9%）
- 10:30 ◎ 9月中国生産者物価指数（PPI、予想：前年比▲1.2%）
- 15:30 ◇ 9月スイス生産者輸入価格（予想：前月比0.0%）
- 15:45 ◇ 9月仏CPI改定値（予想：前月比▲0.3%／前年比0.9%）
- 16:00 ◇ 7月トルコ失業率
- 17:25 ◎ ブラード米セントルイス連銀総裁、講演
- 17:30 ◎ カーニー英中銀（BOE）総裁、議会証言
- 17:30 ◎ 9月英雇用統計（予想：失業保険申請件数推移2.79万件／失業率なし）
- 17:30 ◎ 6-8月英失業率（ILO方式、予想：3.8%）
- 18:00 ◎ 10月独ZEW景況感指数（予想：▲27.3）
- 18:00 ◎ 10月ユーロ圏ZEW景況感指数
- 21:30 ◎ ブリハ英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 21:30 ◎ 10月米ニューヨーク連銀製造業景気指数（予想：1.0）
- 22:00 ◎ ポスティック米アトランタ連銀総裁、講演
- 16日 01:45 ◎ ジョージ米カンザスシティ連銀総裁、講演
- 16日 04:30 ◎ デイリー米サンフランシスコ連銀総裁、講演
- 国際通貨基金（IMF）、世界経済見通し公表
- IMF・世界銀行年次総会と関連会合（ワシントン、20日まで）
- APEC財務相会合（チリ・サンティアゴ、最終日）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。  
※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

## 【前日までの要人発言】

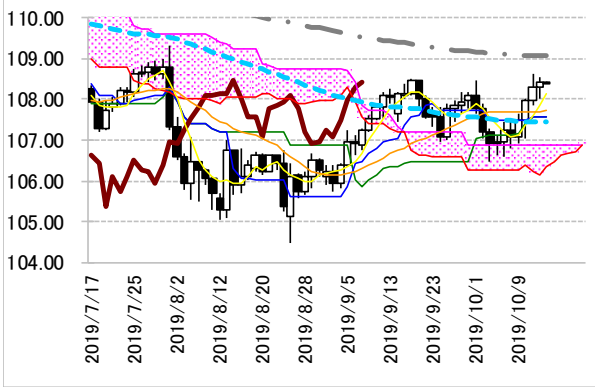
14日 06:23 トランプ米大統領  
「米財務省はトルコへの強力な制裁を課す準備をしている」  
14日 20:37  
「まもなくトルコに対して大きな制裁が課される」  
15日 04:57  
「トルコに対する鉄鋼関税を最大 50%まで引き上げる」  
「1000 億ドル規模のトルコとの貿易交渉は即刻停止」  
15日 05:17  
「もしトルコのリーダーが危険で破壊的な道を進むのなら、トルコ経済を素早く破滅させる準備ができています」  
  
14日 15:00 コペニー・アイルランド外相  
「ブレグジット取引は可能だが、厳しい問題が残っている」  
  
14日 17:13 デギンドス ECB 副総裁  
「ユーロ圏がリセッション(景気後退)に陥る可能性は非常に低い」  
「欧州中央銀行(ECB)の景気見通しは、ハードブレグジットのシナリオは想定していない」  
  
14日 17:52 ノバク露エネルギー相  
「現在、石油輸出国機構(OPEC)との協調スタンスを変更する議論はない」  
  
14日 19:59 エリザベス女王  
「英国の優先事項は、10月31日に欧州連合(EU)から離脱すること」  
  
14日 20:18 欧州連合(EU)高官  
「ジョンソン英首相が、離脱案の英議会承認を得られるか否か確信を持ってない」  
  
14日 21:09 ムニューシン米財務長官  
「先週の米中通商協議はかなり進展した」  
「中国との第1段階の合意は重要」  
「中国と第1段階の合意の署名に向けて協力していく」  
「12月15日までの合意署名を望む」  
  
14日 22:08 カンリフ BOE(イングランド銀行)副総裁  
「金利の低迷は、構造的な趨勢」  
「ブレグジット合意となっても EU とどのような貿易関係になるかは不透明」  
「金融政策は有効だが需要を刺激する他の方法も必要だろう」

「経済見通しは1年前と比較しても弱くなっている」

14日 22:17 ロウハニ・イラン大統領  
「米国の制裁にイラン経済は服従しない」  
「欧州各国は15年の核合意を守っていない」  
「地域内の危機は湾岸各国の外交や協力で解決できる」  
  
14日 22:52 モゲリーニ欧州委員会外務・安全保障代表  
「トルコのシリア領内での軍事行動を防ぐために団結している」  
  
14日 23:29 エルドアン・トルコ大統領  
「誰に何を言われようとシリアからトルコ軍を撤退させない」  
「シリア北東部でのミッションを完全にやり遂げる」  
  
15日 00:25 露大統領補佐官  
「トルコのシリア北部での軍事行動はシリアの領土保全とは一致していない」  
  
15日 01:03 ペロシ米民主党・下院議長  
「最強の超党派でトルコ制裁を求める」  
  
15日 01:12 英首相報道官  
「もし議会在政府案を否決してもジョンソン英首相は辞任せず」  
  
15日 01:26 リンネ・フィンランド首相  
「EU 理事会前にブレグジット合意に至るには時間が足りない」  
「我々にはもっと時間が必要であり、EU 理事会後も交渉継続が必要」  
  
15日 04:44 トルコ大統領府  
「エルドアン大統領はマクロン仏大統領との電話会談でシリア北東部での軍事作戦の目的を説明した」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

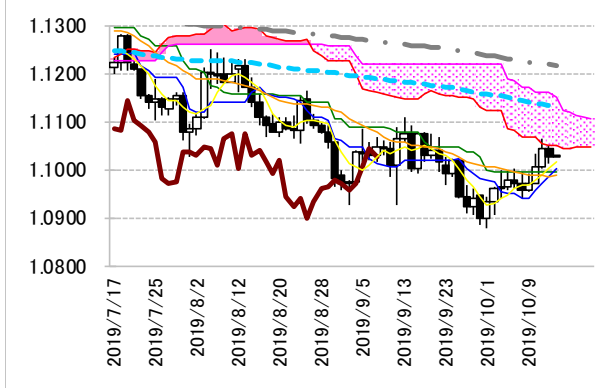


### <ドル円=転換線・基準線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線と同値、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開。しかし、価格が108.48円から108.63円まで高値更新したものの、相対力指数は66.06から60.36へ低下しており、逆行現象がトリプル・トップ(108.48円・108.47円・108.63円)の可能性を示唆していることで要警戒か。

本日は、転換線・基準線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下回れば手仕舞い。

レジスタンス1	108.63(10/11 高値)
前日終値	108.40
サポート1	107.56(日足一目均衡表・転換線=基準線)
サポート2	106.89(日足一目均衡表・雲の上限)

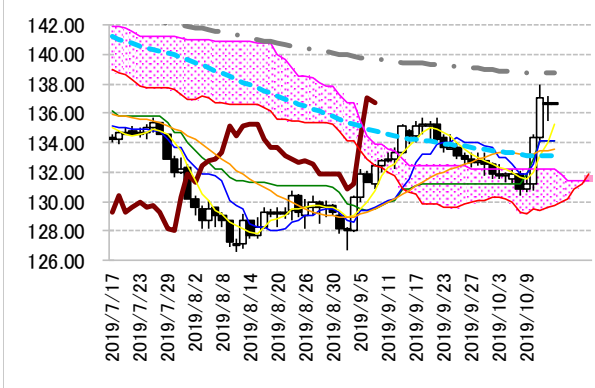


### <ユーロドル=11日高値を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回っているものの、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回って引けていることで、売りシグナルが優勢な展開。雲の下限が抵抗となり、高値圏での被せ線が反落の可能性を示唆している。

本日は、11日高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1063(10/11 高値)
前日終値	1.1027
サポート1	1.0994(日足一目均衡表・基準線)

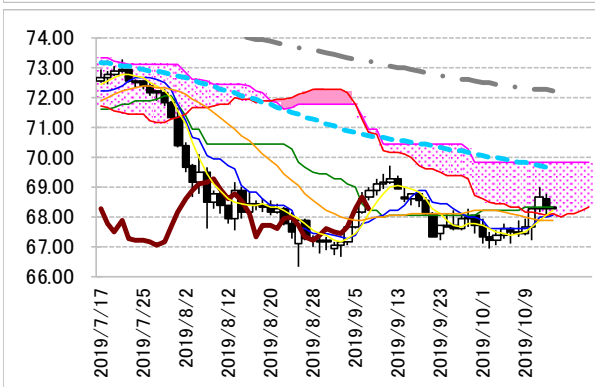


### <ポンド円=14日安値を支持に押し目買いスタンス>

小陰線引け。一目・転換線は一目・基準線と同値だが、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。5日・21日・90日移動平均線を上抜けており、200日移動平均線をうかがう堅調推移が予想される。

本日は、14日安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	137.90(10/11 高値)
前日終値	136.68
サポート1	135.51(10/14 安値)



### <NZドル円=雲の上限を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の中で引けている(中立要因)ことで、売りシグナルが優勢な展開となっている。陽線新高値5手で反発したものの、高値圏での孕み線で反落の可能性が示唆されている。

本日は、雲の上限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	69.78(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	68.27
サポート1	67.22(10/10 安値)

